

特別
~4
8150



歌道書記

書頁
八
8150



一表紙之豎三分一横六分一豎加外題豎寸法ナ
 一横六分一但六折ニシテ

。當流相傳和歌會出坐之次第

懷紙認様之事

一懷紙ヲ認出時宿懷紙上別ノ紙包上下
 折カヘ之或短冊硯下或懷入テ會所ノ縁ノ
 邊上紙ヲ取り或懷入亦硯下入テ置懷紙ヲ取
 懷入ル

一人數集一札有座ツキテ後少ソハムキ懷ナル
 懷紙ヲ取出之落字有カト用心ヨシテ本如卷

タ、こメイサ、カツケテ、末座ヨリ次第ニ持行
文臺ニ可置也

一 懐紙ヲ文臺置様左ノ手ツ先ナシ右手ツ跡ニテ
持歩ヨリ文臺ノスココナタヨリ膝行トテ二三足膝
アユヨリ左ノ手ツキ文臺ニシヨビカリ懐紙カシ
ラヲ吾方ヘナルヤウニ右手ニテ文臺ノ右吾左カ
タハシニ二卷ホト解ヤニヒテ可置也解サルモ不
苦シカモ卷目ツケヌヤウニ寸ヘシサテ逆行トテ亦
膝ニ二三足ホトウシ只ニサリ常ノコトク立テ貴人
ノ方ヲアトニナラサルヤウニカハルニ左ヘ向テ飯右ヘ方

イテ座ニナラルベシ努ム寸フウニナラルバカラス

一 懐紙ヲ持テ出ルニ口傳アリニ條家ニハ懐紙ノサキ
寸コシ折テトケヌヤウニ調ニ亦冷泉家ニハタリル
クルト卷前ニイタキタルヤウニ持テ歩ク昔ハ右手ニ
袂ノウチニ入テ文臺前カ、リ左ノ手ツキ袂ヨリ
トリ出シ文臺ニシキトトク

一 懐紙認様之事

一首如分ハ三行三文字 但此ハ井家ニハ五文字
二首三首ノ時ハ二行七文字 兩方共ニ奇ニ寸
春日詠初春霞波如分

冬 祇左大辨藤原經廣

初九字 阿ふむのけふおひり

二十字 是如るかきみらり春

三九字 此花あり阿ふり

四三文字

右九十九三十一分ハ哥上ニ文字配書付傳与猶
外ニ記ス圖

冬日同詠一首如少

左邊爲權佐藤原永孝

冬植物

九十九三前二同

如此ニ書ハ之作内ニ哥題ヲ書入侍^リサレ時^ハ爰ニ記ス
如ク題ヲ書^ル右ハ之作ニ春日冬日ト書ニ親王大
臣法体^ノ象ハ四季^ノ季^ノ不書入亦圖

詠哥日祝和歌

中務卿宗良親王

哥ハ前ノゴトニ

詠立春天和歌

天台座主尊應

歌同前

一 官位あり八官位可書法師八法名尤名集トモ二
無官人ハ氏名集可書也

一 ハ之作之内ニ同ト云ヤ入半寄合ニ榎雪松ノ
ヤナル物一題ヲ同クヨムニ書ク字之但公方撰家殿
下其座貴人ヤ台トナキ所方八常リ人ニヒトヒカラ
カレ故寄合ノ會ニテモ同字ナシ

○ 二首之首二行七字之圖

先書歌書ニ墨次有之初ノ五字次ノ七字目
ニテ墨繼三句目モツギ四句目下ノ句ノカニテ分
ニツカス五句目亦墨次キ之

春日同詠三首如哥

參祇左大辨藤原經廣

○ 待卷

待りし花よとみ祇乃
志く雲の底くくはさく
山かたのうら

飯屋

墨

墨

墨

墨

右衛門權佐藤原正廣

○亦題云——作り法内書入傳々々

夏日同詠夕立雲和歌

正三位藤原公條

是ハ貴人高位切者ハ云々云々

和歌書文字子ノ中ハ事

倭守是貴歌之云々云々貴人宗匠より外

ハ有憚歌是和歌——平人ハ和歌

懐紙直真州行三品之事

○種日同詠池月秋久和歌

左衛門權佐藤原正廣

是真也

○秋日同詠池月秋久和歌

右衛門權佐正廣

官名集云作り出ハ行ハ

○秋日同詠池月秋久和歌

正廣

州ノ名集云作り至畧云

一追善懐紙ハ事一奇二首ハ白卷——一首ハ

經文ハ奇亦一首ハ懐舊乃奇ハ白卷——

○ 祓子三惠振歌和歌

西方行者顿阿

哥八二行七字

懷舊

哥同前

右ノ通ケ一作乃也(經又書入傳有作)或
法花亦八品乃哥(乃)讀傳有(小)作一(作)小何
所書之經又題小用(此)阿里

○ 祓方便品和哥

經文

作者

其智惠門

二行七字

懷舊

二行七字

一 名月懷紙或八月十五夜

八月十五夜同祓何首和(字)是(例)乃(亦)之(始)自

始夜用(之)可(出)之 七夕同新

一 神紙懷紙(一)作

○ 冬日同陪岩清水社題

祓三首和歌

一禁裏御會懷紙

夏日因詠竹契延年

應製如哥

権大納言藤原光者

詠如え侍りし禮みえ

や侍舞之礼乃侍り

けり侍り千代此中

くゝ家

一女院后宮親王家御會

春日因詠鶴延年友成

教如哥

一五首乃哥書損之礼二行七字之但紙二枚

此乃升家八三首目乃哥一行書之次のり

是乃るゝゝ之礼侍り能書之也又書面流

八三首目乃哥二行如ゝゝ次此ゝゝりある

少ゝ次之五首之七首之能目少ゝゝ子因

半やゝ者小園了ゝゝ侍り

山家春

哥二行七字川

山家夏

奇二行七字

山家秋

人としき月とわい家 三首目

みゆちのくわんたふりふ

山家冬

二行七字

山家雜

一女房懷紙名とえ不出て但二人より上るる
ハ書たり古くはく之取すたふ包ハ
待賢門院堀河 堀川と云名は女房之
右大將道綱母

安法之師女

何内親王家雜

祐子内親王紀伴

右と通るも一奇ハ古くハ書

一首此云ハ

此より取り来の家

うゝすはるるまゝ

たけとていふと云ハ

除法

三首乃奇

ソテ、きふに取ら

雲や

色は清く凡月は

いづちの夜より

春をゆく

花よりかきくさる海よかた

松里ぬくハ吹く家

風とけつかけふらぬ

右にてもくこ七書法をきく前より懐紙
の少く替る半付より懐紙大形かたは

一 南産し短冊と申

或ハ十首二十首三十首五十首少くは題紙
書付しん三つより折る現箱紙乃々より
うく墨くむくハ巻紙巻軸小目志より
付くそ坐の貴人宗近乃沖よりかき
小目志より付るハかき書代ハ巻紙巻軸
小目志より付るハ横様小目志より
一 短冊より包し懐紙と持く至時乃々二朱
寄左りの手とばき右の指より
とりく相切きふかけをたの人麻呂より

御新と目小かけ短冊と懐中しとすはめ
懐紙小巻く御時久る少して中の巻
一はく巻一但短冊ハと巻より取小立
巻一親王家大臣大納言次し乃中京
取小御立之巻く敵之人硯管ハ蓋を持つ
巻中より御前小巻時題紙中取り乃家
形里大納言以下乃人ハ自巻より御立
取巻ハつけれと題とより巻く巻硯料
紙と川巻一巻中より巻く横と
あり三つ小たふみ硯小巻取ハ巻より

さく懐中巻く巻短冊とすハ眼み巻取巻ふ
巻くよはく巻紙は乃親里目其巾やふ
巻と書けり乃右の方より下と吾名巻と書く
ハ親ハ甚巻外ハ御割衣ハくハ巻とハ巻と
下小巻く硯管ハくハ巻とハ巻とハ巻と
巻てちく巻ハ巻く巻と巻と巻と巻と
一短冊ととりて若其乃題の文字ハ巻と巻と巻と巻と
乃心合巻と巻と巻と巻と巻と巻と巻と巻と
巻とり小巻ふうち巻と巻と巻と巻と巻と
らみるこるハハ巻と巻と巻と巻と巻と

一吾哥書集詠什り書付侍るる家道乃詠什お来
乃折置指く集りうのふらるる一用控けられ侍
才小譚而畏く居る退くをうす

一和哥お来短冊小本法を侍る中の上りくふ小折く
け宛とりたる時乃あきく指くは管筆蓋一とす
海色一但け宛ハ歌乃方内打くは紙を和哥出
てハ名集乃かき内なる歌あき小折色一

一懐紙短冊講せ宛ハ吾哥乃て宛ハ歌とひきく謹むりま
亦た座集返る美人ハ河原歌讀上時歌を下謹哥聴く
一人乃詠什紙折色一とみ紙時かくて

の聞く男と兼おふりてを色うす

一兼日詠什乃子。望紙ふ二乃小書色一
紙のけ一手りちめまゝ詠色く詠紙
書右のこふ引さけて名集と玉題とり
一たまはとあきく和哥と書一乃題ふ二
首三首とらむる一かし哥たさぬ道あ
紙一書ふ書色一なきハ

。替り忘

懐紙のけいぢ
ちのあはれ
出のりなむ

一 懐紙とちぢるは書

寄此末の方と能く言うか入るを言ふかして二
枚紙長尺一寸五分短尺一寸六分の書
刀少く筆のこま目と能く言ふ(5)と
兩の海をく三寸八分寸小女と能く言ふ
紙は大小とも通又えかかひを付し五首七
首の懐紙のよき書はく一枚紙のよき書
はく十首の懐紙のよき書はく十首短尺と
一十首の懐紙のよき書はく二枚の二枚小かかす
一 懐紙の紙は長短何里或法に引合たるは然る

心易く今よの枚原とも用ひく大小長短何れも
ハ下ともは法方ともしてしうハ下も付れよ
紙はく不同よくみはくはく進成と下かり合
と付る方ハ下ともしてしうハ下も付れよ

一 懐紙のよき書はく下位と能く言ふ
下(志)から縁付系但何れ下位と能く言ふ
此書教はく人ハ官位よかハ下位と能く言ふ
くりし書裏書の積りくくくかす

一 裏書ハ懐紙の裡の左の方表ハ縁の字は右
其裏くくくかかすハ前と記すは書不同よ付れ

官位混乱の事
地下人田舎あり此會事之
官位決す

一 硯文甚く墨く文字甚其右乃市ノ墨料也
短冊乃類古ノ墨ノ水引ハ公ニ於心乃下ノ
心其心く入之短冊ハ心と法ノ物之但五千
枚百枚と云はれ下ノ二前也心墨之床
押板平見合墨之

江戸前
同本字好百首懐紙認家紙乃寸法長九寸
寸五分或二分前ハ手打好墨其紙色は

○ 諫百首如歌 氏各集上

春二十首 夏十首 秋二十首 冬十首
五言

春 春のついでに
夏 夏の日影
秋 秋の夕陽
冬 冬の小雪

各集奇乃書るり
書訓ハ各集乃出何
諫字小書字下
題ハ亦春二十首
字乃通下小書

修て眼く書とつり

一會短冊乃書様此中

しつりみち下穴と心穴乃るをり題書出寸

書立をりをりみやみり此

○立春 扇はこみく今初はるのし名乗

立春

○朝霞

短冊の紙の寸法幅一寸八分長一尺一寸
五寸字額二行に書尤三字と是小同一字
額二行若圓乃るを奇書なり 一糸家

冷泉家古字乃高下者二糸家一字なり
冷泉家古字乃の里短冊乃折目なり此を
短冊長寸尺三寸折目乃たり
奇わりの寸かり圖のり

- 一懐紙調法式
- 一團扇調法式
- 一同寸法
- 一扇調法式
- 一短冊色紙寸法
- 一丸之半
- 一同調法式
- 一貝并奇かゝる調法式
- 一勅額短冊調法式
- 附菱事
- 一掛懸短冊調法式
- 一硯飾法式

一 龍形色紙

懷紙寸法

- 一 御製 大鷹且紙 長一尺五寸横寸幅
- 一 大臣 同且紙用 長一尺二寸横寸幅
- 一 公卿 同且紙用 長一尺二寸横寸幅
- 一 雲閣 同分寸用 長一尺二寸横寸幅
- 一 地下人 引合用 長一尺二寸内

端五寸明可書玉
詠堂風入夜琴

和歌
沙宮女御

懷紙調法式
哥此字末乃字此揃中様
名如共の法とてしるを

中より小口をれり
懐紙の揃り
いはゆる揃り
宛り也

且冠ハ揃(杓)何と如此二但哀
傷之懐紙ハ下ッ揃
書法書中し依る當此
懐紙の書と爲書中し

端三寸

秋日同詠雨後草花

和歌
けしふりし露花
りつむははるのあ
もさるはるのなれ
花も〜

地下懐紙の如き定句の書

哥此字末乃字此揃中様
名如共の法とてしるを
点一文字とがし
此より字も假名三三三三

又日同詠二首あり

時雨驚夢

多自海とんねまのうた
去る心来りけむの枝れ
者よはるなり

閑居閑歌

さる秋のこもりのつやの
ひかりゆふさゆきとせし
けと隠れり

哥の字のし字一ふまより名ははるる小書也

如哥の河よ如井冷泉家書也

二条家三哥小通せりけりけり二女用ひのうた

- 一 懐紙の裱紙一首乃哥例式之なりと字二首三首あり常
- 七首懐紙二枚紙之五首と七首と哥の書様同物也
- 三首目乃哥と二行と前紙紙の書様七ふまと
- 續目と四ふま

一 法中八季の書かゝる但官位けりてえれ書は
七付し本字とふ書

一 一首乃懐紙の之ゆと字二行目の末より句一字
二やみたるわき入る一おの井家二かゝりて二行ふま
書く但彼つれとめ書

一 二首より九首ふまりてハ紙乃七字一二と書ふと七
五七と書く末七ととあゝりかくさきとあ
但之首とそハ一枚ふ書也五首七とよりハ紙乃
次く書之
但七と七首乃ととハ
二枚の紙紙

一 十首より百首ふまりて二行書之七紙紙

短冊の首尾を合はせたりて一十首二枚とす

一 女房の懐紙の七首と書

一 七夕の懐紙の七首と書

一 重湯の懐紙の九首と書

一 短冊寸法

長を八寸幅を寸八の書紙但

八寸は少狭か付八寸半
短冊は寸八寸半

御製短冊はたけを替りて同半と

うちくと重短冊は青の紫の青と少して調

しは紫と少小竹の哀傷の時紫と少して用

且亦冷泉家と説く紫の御製小用中紙依は

御用は語る紙其の御製は哀傷の短冊紙は

青と少の紫と少して紙は哀傷の時紫と少

は少の紫と少小竹の哀傷の時紫と少

一 色紙寸法

大色紙は六寸四分横九寸六分
小色紙は六寸横六寸一分

一 短冊書様短冊とす其物より中文字とて常の紙

題の短冊の書は

書継是の紙は紙を少の書紙但亦勅題の

之物の下ヨリ少の紙を少の紙は自然言損

自中少難く少の紙の少り切はる書は

是故実也

亦少の紙を少の紙は

初冬嵐

はるしつと晴る小春の生けりたる
妙山のりし吹やとぬらん

題名未の時ハ二ノヲ挿下ヲ明レ

古奇乃時ハ二ノ目ヲ老乃書之

右 末乃 常や けさ 山 僧正 通昭
露 古希の ねれ 老川 老成

追善之短舟如此皆ヲ挿 依之大臣家尋常之状挿下挿書

江天 昔のまよかた道家言とあるは
暮雲 みよは此趣ハありをことり

秋傷し秋と挿之

左凡河内 十のり此 吹のふ 木さり
躬恒 ねと 秋 奏うり けり けみ

我不愛 之へ何とさふまよかたのふを
身命妙なる法此みちまをのふ

掛懸之短冊神社小のふ

對松 ちと路名る尾と此中松る 樹
争齡 弟代もそ乃友とけり 見れ 名兼

冷泉家抄

落葉 宿ありけりしはみんかうか
けまふ木の葉たるん 朽 けり

今日不知
誰計會
春風春水
一時來

詩奇紙色紙より書交
 如是書下詩と此
 書下ハ奇ハ友の如く
 下のか人臨下と
 可成る少書也

けいこく
 みるん
 おし
 みるん

大 柿本人麿

奇仙の書頭ハ古くさるはり
 古くし書法之物とて石依
 何書頭古くしたるハハ
 かもまを軸とす可なり
 みるん

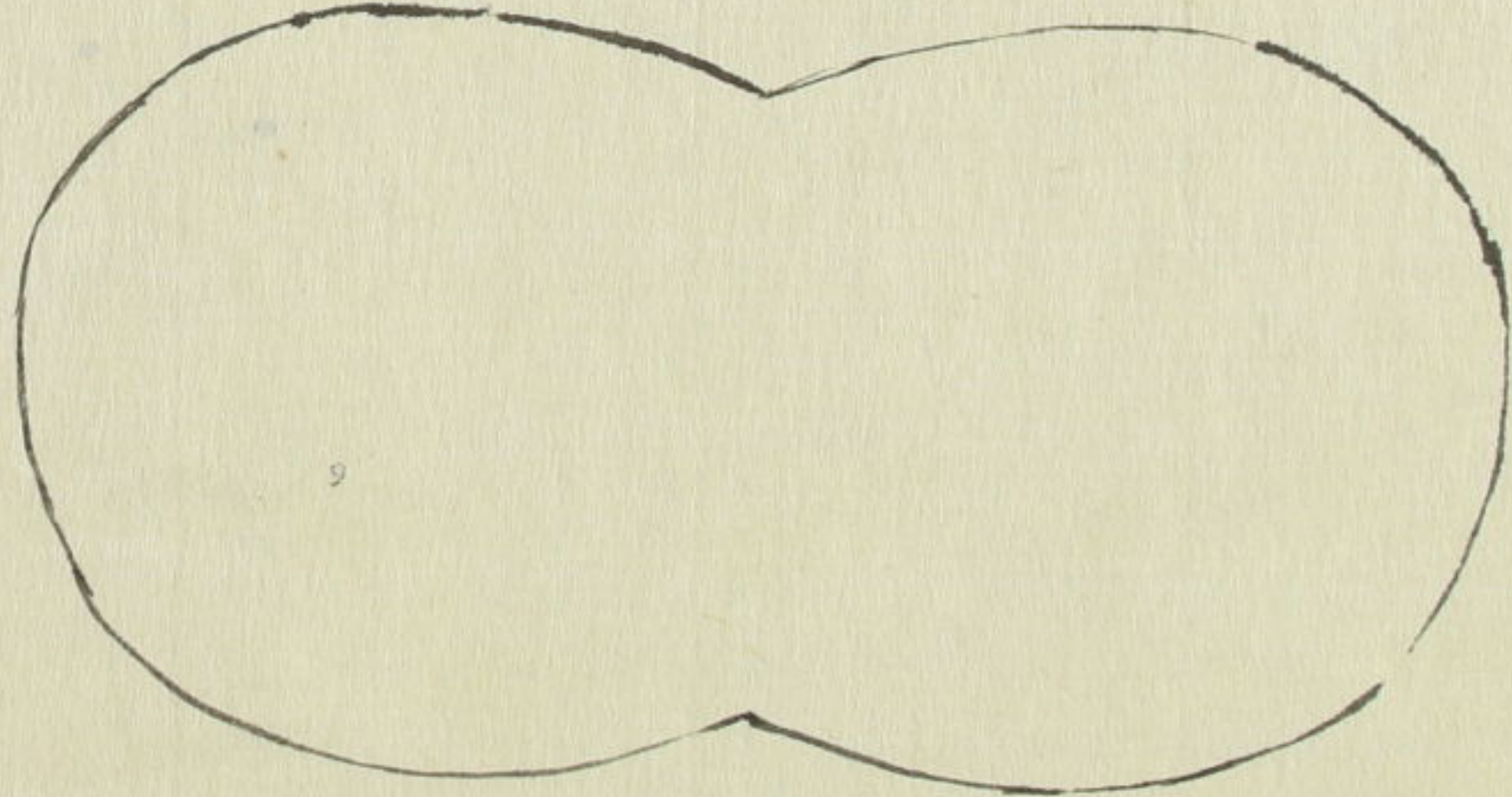
龍形紙小如此豎横
 小龍形有時横此龍
 此眼と此と一
 豎乃龍ハ目カ裏
 由白書法し云

右	紀貫之
みるん	みるん
みるん	みるん
みるん	みるん
みるん	みるん

繪小日月花
 木青くハ
 り〜道
 多〜水
 少〜水
 多〜水
 少〜水
 水〜水
 水〜水
 水〜水

かき
 暮
 跡
 又
 雲
 雨

み
 水
 山
 水
 水
 水



〜
 又

子 拂水
 美 柳花
 點
 隔樓 兩三
 鴛鴦 聲
 舌

〜
 又

水
 目
 水
 水
 水
 水

扇子八第一裏小書

右小野小町
 花の色
 うりりり
 くらり
 くらり
 くらり
 くらり

扇子八第二裏小書

くは
 くらり
 くらり
 くらり
 くらり
 くらり

扇子八第一裏小書
 端の折折り書

空
 夜
 螢
 後
 深
 更
 軒
 白
 初
 月
 明

奥の折折り書
 て書る也

郭
 五
 夜
 ひ
 くらり
 くらり
 くらり

侍河の八共繪紙
 是又繪紙骨
 又好き一対也

